

世界マスターズ 2017 テグ大会の時、テグのゲストハウスで同じゲストハウスに泊まっていたポーランド人から「2019 年トルンで(世界マスターズの大会で)会いましょう」と言われ、「うーん、行けるかな」とその時私は思った。

テグ大会の 1 か月後、日本語教育学会の求人案内のサイトにコペルニクス大学日本科の求人案内が出ていて、トルンの地名が目にとまった。「世界マスターズ室内陸上競技選手権大会に出て、木村晟先生の古辞書の影印本をコペルニクス大学に献本できれば素晴らしいことだろう」と思い、コペルニクス大学の日本人の先生にメール連絡を取り、世界マスターズ室内陸上選手権大会にエントリーをした。幸運は続き、この期間内にコペルニクス大学で文学の国際会議もあって、その会議の発表のエントリーもした。ただ、「コペルニクス大学で本の献本や(学会で)プレゼンするだけでなくことわざやスポーツ言語学についても何か活動、提供できればいいな」と思った。

2018 年年末、コペルニクス大学日本学科から「ことわざに関して何かしてほしい」と言われて「やった」と思ったが、そのあと、「スポーツ言語学の講演、ことわざの特別授業、ことわざの教え方について日本語の先生向けの講義をしてほしい」と言われてうれしいのと同時に「こんなに多くのことを 1 週間弱で、できるかな」と思った。

ワルシャワまで一番安くて速い便は、中国国際航空で、あまり良い評判ではないようなので、心配したが「案ずるより産むがやすし」と思い航空券を買った。2、3 月講演等の準備をして、いよいよ 3 月 21 日に大阪を午後出発。北京空港でのトランジェットが大変と聞いていたが、スムーズに行けて拍子抜けをした。北京からワルシャワ間のフライトもスムーズに行けて特に問題はなかった。評判よりずっと良かったので次、ポーランドに行くことがあれば中国国際航空を使ってみたいと思う。

22 日早朝 6 時 20 分ごろワルシャワショパン空港に着いた。ワルシャワの空港からパスで(ワルシャワ日本語学校の副校長先生に会いに)ワルシャワ日本語学校へ向かった。ところが学校がよくわからず学校の周囲をうろろ。フェイスブックのメッセージで何とか連絡を取ったが、建物の入り口がわからない。結局、学校のあるビル 1 階(1 階は、お店ばかり)のコーヒー屋で待ちあわせることになり、そこで待っていると、副校長先生がやってきたが、話ができたのは 10 分間くらいであった。そして、そのあと、ワルシャワ大学日本学科に行き、古文書の影印本を献本。そのあと宿舎に向かい、一日は終わった。

その翌日(23日)ワルシャワから長距離バスでトルンへ向かった。昼過ぎトルンに着いて宿舎へ。チェックインして荷物を置いて世界マスターズの開会式の会場へ。そして開会式で日本の国旗を持って行進した。開会式の後宿舎へ。そして次の日24日、3000mのレース。翌日授業の準備をし、翌々日の26日午前中コペルニクス大学でことわざに関する特別授業をした。毎日新聞2015年2月10日の「テレビからも生まれる「ことわざ」」という記事を読んだが「一を聞いて十知る」ということわざが、学生がなかなか理解できなくて教えるのに苦戦。このことわざが理解が難しいのは、意外であった。この私の特別授業を聞いたのは学部3年生と大学院生だった。そのあと、キャンパスでコペルニクス大の先生と食事をして午後コペルニクス大学日本語の先生と神戸大学からインターンで留学している学生を交えてことわざの指導法のレクチャーとそのあとディスカッションをした。そのあと、宿舎に帰って翌日の講演の準備と次泊まる予定の宿舎に移動するための準備をした。

次の日27日、マスターズの会場で、マスターズの人二人と会場で待ち合い、その人たちと一緒にコペルニクスの先生の車で大学へ。講演の開始40分まで、マスターズの人達と教師室で待ち、そのあと、講演の会場に行って講演の準備をした。聴衆は学部1,2年生を含めた大学の学生全員。ポーランド語の通訳付きの講演であった。テーマは「スポーツ言語学と私ー過去、現在、東京五輪・パラリンピック、そして未来へー」であった。講演も無事終わり、マスターズの人とコペルニクスの先生が経営しているラーメン屋に行った。そこで会食。その近くにあるホテルに泊まった。

翌日28日、文学の国際会議も何とか終え、午後のバスでワルシャワに戻った。そして、その日は終わった。次の日29日ワルシャワを経とうとしたとき、空港の保安検査室で財布がないことに気が付き大慌て、結局、見つからず仕方なく北京行きの飛行機に乗ってワルシャワを経った。飛行機の途中、隣の中国のおばさんが日本語で話しかけてきて世間話に…。おばさん、15年ほど前に京都に留学したらしく、おばさんの「京都はよかった話」であつという間に時がたち、午前4時すぎに北京に着いた。おばさんは「この時間、北京空港は食べるどころ、両替所が開いていないのでこの100円で温かい飲み物を飲みなさい」と言って100元くれた。その時、あまり飲む気がしなかったので、100元そのまま使わず日本へ。関空にもどり帰国審査を終え、お金を借りようして警察へ。しかし警察はお金を貸してくれなかった。迎えに来てくれる人もいないのでどうしようと思っていたら100元があることに気づき換金所で「換金できるか」ときいたらできるとのこと。そして、換金すると家まで帰れるぎりぎりのお金が手に入ることを知り、急いで換金。そのお金で家に帰った。おばさんは「地獄に仏」の人だったのかもしれない。

今回、充実した思い出の多かったがハラハラ、ドキドキで大変だった。スリには気を付けようと思う。

世界室内マスターズ 3000mのレースの様子



講演の前の打ち合わせ



コペルニクス大学日本学科



講演の様子

